

水資源

ENVIRONMENT



▶方針・考え方

物理的な水不足問題は、当社事業に対して影響を及ぼすと考えています。具体的には、工業用水や上水道などの供給制限は、水を利用する火力発電所や原子力発電所の運営に影響を与える可能性があります。

火力発電所および原子力発電所では大量の水を利用しています。このうち、冷却水は海水を利用しており、冷却水以外の発電用水についても、その半分程度を海水淡水化装置によって賄っています。

なお2024年度、当社が運営する発電所の湯水に係る水リスク評価を実施したところ、重大なリスクがないことを確認しました。

このように、国内の発電所において湯水等にかかる事業上のリスクは大きくないものの、引き続き、取組み欄に記載の通り、水資源の適切な利用とリスク管理について各取組みを推進していきます。

また、グループ共通の取組み(関西電力グループエコ・アクション)として、オフィスの水使用量の極力低減に取り組んでいます。

▶目 標

生活用水使用量の削減

極力低減

▶取組み

●水リスク評価の取組み

当社が運営する発電設備や蓄電池、情報通信設備、データセンターおよび不動産の湯水に係る水リスク評価を実施したところ、現時点で、水不足が発生するという重大なリスクはないことを確認しています。なお、世界資源研究所[※](WRI)が提供するAqueductの情報を利用しました。

※ 地球の環境と開発の問題に関する政策研究と技術的支援を行う独立した機関

これらの具体的な内容はTNFD レポートに掲載しています。 [📄](#)

●パフォーマンスデータ

●水使用量(100万m³)^{※1}

		2023年度	2024年度	2025年度
淡水使用量 ^{※2}		3.84	3.75	3.30
		(4.35)	(4.38)	(4.09)
	河川水	0.35	0.32	0.35
		(0.35)	(0.32)	(0.35)
	地下水	0.00	0.00	0.00
		(0.50)	(0.30)	(0.46)
	都市用水使用量	3.49	3.43	2.95
		(3.50)	(3.76)	(3.28)
	工業用水使用量(発電用)	2.48	2.41	2.10
		(2.49)	(2.44)	(2.13)
	上水使用量(発電用)	1.01	1.01	0.86
		(1.01)	(1.32)	(1.17)
海水(淡水化) ^{※3}		2.75	2.84	2.74
		(2.75)	(2.84)	(2.74)

※1 括弧書きはグループ会社を含めた数値(一部会社を除く)

※2 海水(淡水化)使用量は除く

※3 淡水化して利用した海水

※ 捕捉率はp.23のとおり